

遺産影響評価マニュアルの検討状況について

1 要 旨

- ・世界遺産登録及び保全状況の審査において、世界遺産の顕著な普遍的価値（OUV：Outstanding Universal Value）が計画されている事業等によって受ける影響を事前に評価する「遺産影響評価（HIA：Heritage Impact Assessment）」の実施を勧告するケースが増加している。
- ・国内の資産においても、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」等、HIA の仕組みを保存管理体系に取り入れるよう勧告。今後、各資産においても対応を求められる可能性が高い。
- ・文化庁は、「世界文化遺産の遺産影響評価についてのガイダンス」（2011年 イコモス）を参考として、「世界文化遺産の遺産影響評価にかかる参考指針」を2019年4月に取り纏めた。
- ・第12回学術委員会（2019年10月）及び第17回作業部会（同年11月）で、世界遺産富士山においてもHIAを導入すること及びそのためのマニュアルを策定することが承認されたところである。
- ・現在は、学術委員会に設置した小委員会の意見を踏まえ、マニュアルの内容について検討を行っている。

2 経緯・現状

日 程	内 容
2018年 ～ 2019年	○佐久間東幹線建替計画（富士山南麓における送電設備建替計画）への対応についての小委員会での協議の中で、OUVの再整理やHIAの必要性についての議論の高まり。
2019年 10月21日 11月1日	○第12回学術委員会及び第17回作業部会でHIAの導入及びマニュアル策定が承認
2020年 1月20日	○小委員会にてマニュアル素案の検討
2020年 6月	○マニュアル素案の修正作業中

3 スケジュール

日 程	内 容
2020年 6月～9月	○関係市町村等との調整 ○小委員会での検討継続
2020年10月～ 2021年3月 (目途)	学術委員会・作業部会に諮った上で、富士山世界文化遺産協議会において承認 ⇒ 富士山包括的保存管理計画への反映

